

# 埼玉県退職校長会 会報

題字・石田孝作  
第168号  
令和2年1月

## 令和の日に

埼玉県退職校長会 副会長 田高 滋子



い。これは、先日ある講演会の中で聞いてきたことである。このことは、誰しも薄薄感じていたことかもしれない。

何十年前のことだったか、おそらく前世紀のことだったと思う。英国の皇太子が「自分は今世紀最後の職業」と言っていた。我国の天皇も「皆のしあわせを祈る」ということばをよくお使いになる。あの立場の方は「祈る」ことがお仕事なのだ。

今日の人間社会は、得たいもののほとんどを得ることができた。科学の発達はすばらしく宇宙は疎か生命や死の超越というほとんど神の領域にまで到達したのではないか。これからの社会で人間が得たいものと言ったら何であろうか。どうしたら幸福を得られるかということ以外にはな

幸福とは人がそれぞれ感じることだから、感性の問題でもある。それについては条件を整え、自分も相手も互いにそう感じるように努める以外に今のところ妙案はないが、言葉や言葉以外の表現を通して通じ合い、今、自分達はかけがえない時間を共有しているという一刻を得られれば、それは幸せというものかもしれない。よく、同じ空気を吸っている仲間という表現を使うが同じことである。

退職校長会は共通項が多い集団なので、参加することで同じ空気を共有し共鳴協同を覚える機会が多い。今まで、部、班、係それぞれの中で支

1	2	巻頭言
3	9	支部別教育推進協議会 関フ口神奈川大会報告
10	11	第1回理事会報告 一人一言
12	17	現 退校長協議会 役員研究協議会
18	19	囲碁・ゴルフ大会 長寿会員への 寿詞贈呈
20		文芸 編集後記

えたり支えられたり、立場が入れ替り、考えや情報を出し合い活動してきた。

その中で先に行われた各支部の現職退職教育推進協議会で話し合われたことは、とても貴重で持ち帰ってそれぞれの立場で次の実践に大いに役

## 写真と歴史散歩とボランティア

埼玉支部長 相澤 勝寿



立てられたことと思う。私は退職女性校長会にも属しているが、こちらも総会の他に会員研修会と退職現職学校経営研究協議会という行事をもっている。いずれも中心になる部会とそれを支える会員が協力して企画運営しているが、当日までには様々な紆余曲折がある。その折り折りに互いの絆や繋りが強くなっていくものと思っている。得たいものは、人と人との通じ合い、繋りであろう。

役所から、健康保険証が送られてきました。一枚だったので問い合わせをすると、「75歳になると保険証は1枚になります」という返事でした。まだまだだと思っていました。早いもので退職して15年、後期高齢者の仲間入りをしたのです。1枚の保険証が、退職後、どう過ごして来たかと振

返る良い機会になりました。その一つは、退職後は、好きなことをやろうと考えていたので、現役の頃からの趣味である写真に力を入れ、写真教室や講座に数多く通ったことです。サークルにも入りましました。現在は、仲間(写真友)とサークルを作り、勉強会や撮影会等を毎月行っています。また、年に1回、発表の場として写真展を開いています。二つ目は、県の生き生き財団の「生きがい大学」の鷺宮学園と伊奈学園に学んだこと

です。伊奈学園では、ふるさと伝承科に入り、好きな郷土の歴史を学びました。一年では、課題学習に、地元の偉人である「本多静六博士」を選び、その生涯を学びました。二年では、「日光道中」を卒業課題として、同じ課題仲間と日本橋から鉢石宿・日光東照宮まで歩きました。その記録や学習の発表会が今も鮮明に残っています。卒業後は、その仲間達と「歩いて健康づくり」を合言葉に、街道歩きを続け、特に東海道を完全踏破したのは自慢できます。今は、「歴史散歩」と変わりましたが、仲間と歩いています。三つ目は、ボランティア活動で、「放課後子ども教室」を発足させたことです。これは、学校の施設を利用して、地域の方々が持っている趣味や特技を生かした講座を開いて、放課後、子ども達に教えたり遊んだりすることです。今年で8年目になります。地域及び保護者・学校の協力を得て、毎年100名以上の子どもが参加し生き生きと活動をしています。今後、これらは続けて、人生百年時代を歩んでいきたいと思います。今です。